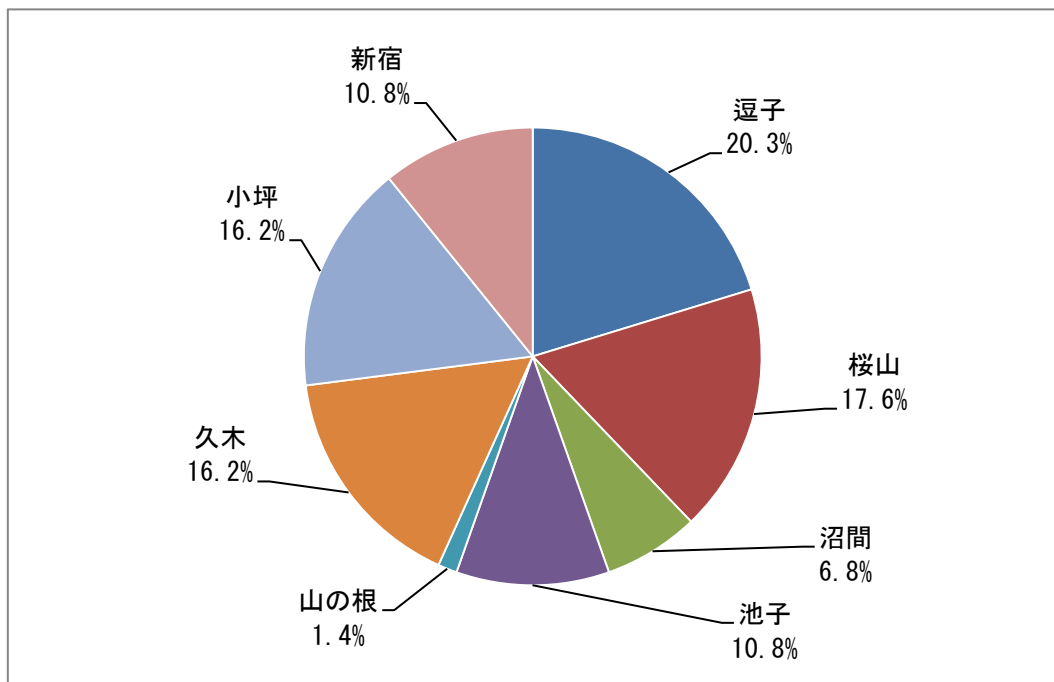


(仮称) 逗子市自治基本条例検討ワークショップアンケート (第1回) 結果

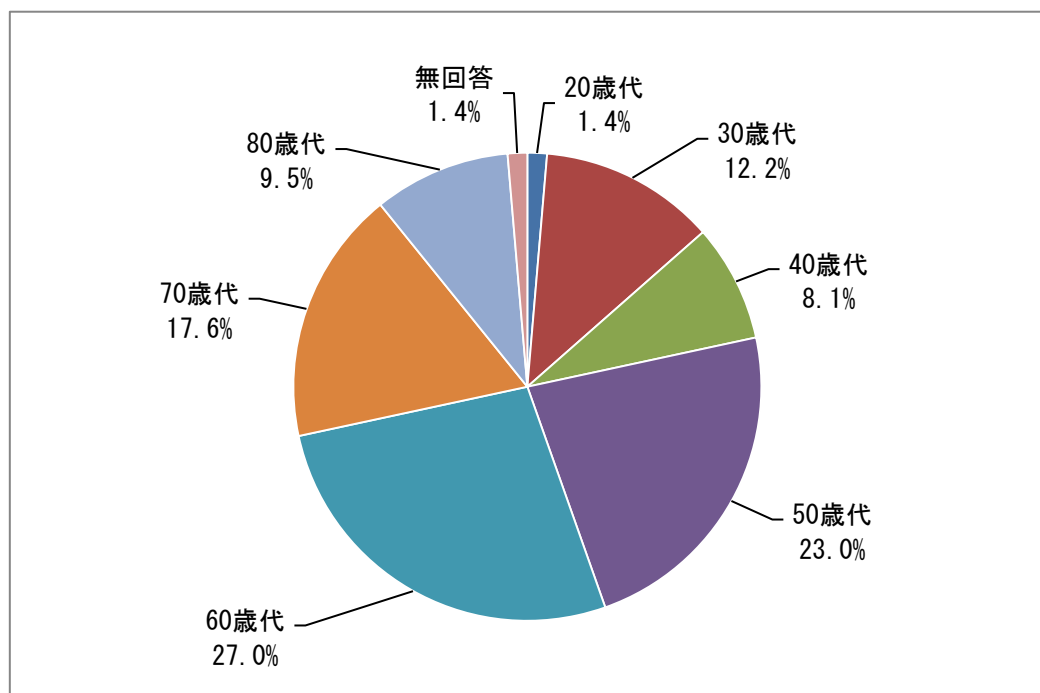
実施日：平成28年7月30日(土)

回収数：74件(回収率98.7%)

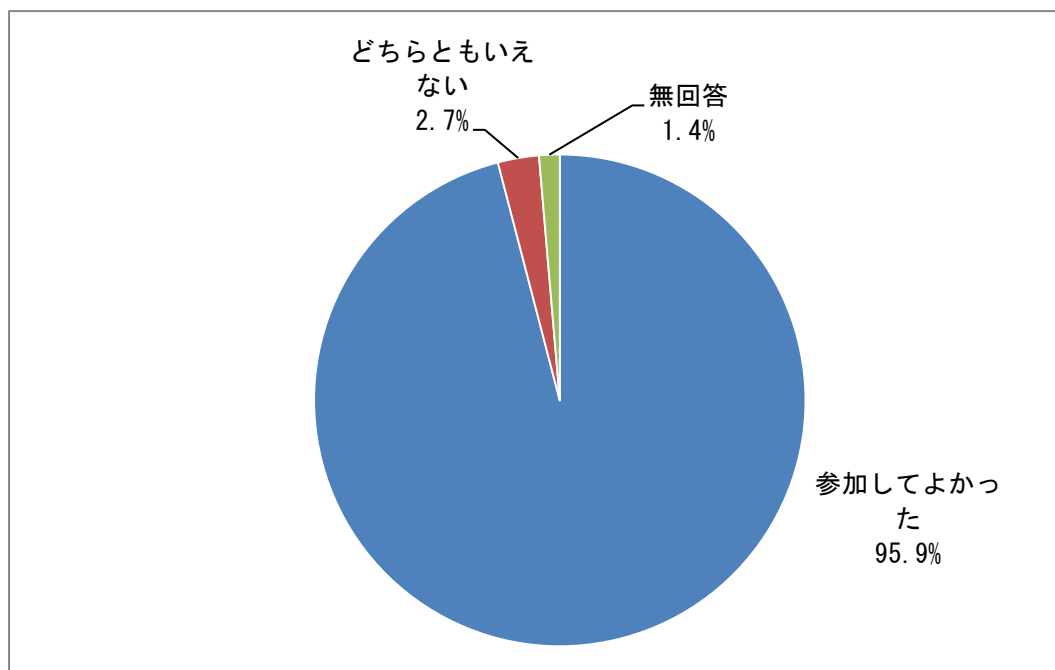
1 第1回参加者の居住地



2 第1回参加者の年代



3 第1回ワークショップの感想



【「参加してよかった」を選択した理由】

※意見の後ろの（ ）は同意見の件数

<30 歳代>

- ◆ 他の世代の意見を聞くことができた。
- ◆ 住んで生活している逗子市をよりよくしようと皆で考えられる場であったため。
- ◆ 他の参加者の意見を聞くことができた。
- ◆ 多くの方々のお話は普段の生活では聞くことができない貴重な機会でした。
- ◆ 共感できる意見が多くあったので、自分一人だけではなく他の「市民」の人も感じていると思えたことが良かった。
- ◆ 市民間の交流ができた。
- ◆ 逗子市に対する皆さんの想いを聞くことができたから。
- ◆ 思っていたことが少しでも言えた。
- ◆ 引越してきたばかりなので、逗子の今までの歴史？も知ることができた。単純に“意見交換”ができたことが勉強になった。自分自身も考えを深めるきっかけになった。

<40 歳代>

- ◆ 普段接することのない方々との意見交換ができた。意外と移転組が多かった。
- ◆ いろいろな考えを持った人が集まったので、視野が広がりました。
- ◆ いろいろな方と意見交換できました。
- ◆ 逗子のことについて良く考える機会になりました。
- ◆ 自分の思いを伝える事ができる場であり、他の人の考えを聞くことができる機会であること。

<50 歳代>

- ◆ 多様な（種々な、いろいろな）意見が聞けた（共有）。（4）
- ◆ 子育て中の方、引退してお二人暮らしの方などいろいろな世代の方と交流でき、意見をうかがえた。
- ◆ いろいろな年代の方の思いが聞けた。
- ◆ 皆さんの前向きな考えを聞くことができた。
- ◆ 年代を超えた意見交換ができ、自分が感じていることを他のメンバーも感じていた。
- ◆ 議論する中で、逗子が抱える問題をつかむことができた。
- ◆ 違う年代の方の意見を聞くことができた。
- ◆ 自分の人生とも直結する問題でもあり、大変興味深く感じた。
- ◆ 逗子に求めるものが多様であることを実感できた。
- ◆ 自分が何となく思っていた事が言葉にできた。
- ◆ 住民自治について多くの人に関心を持っていることを実感しました。
- ◆ 自らの意見が言えた。
- ◆ 逗子の将来を考える人が多い事が分かった。
- ◆ いろいろな年齢層の方から興味深い意見が聞けたこと。

<60 歳代>

- ◆ いろいろな（多くの方の）意見、考え方が聞けた。（4）
- ◆ 自分で考える力が蘇りました。
- ◆ いろいろ思っていたことを初めて話せた気がしています。
- ◆ 老若男女の市民の意見が聞けたのは素晴らしい。多様な意見があった。
- ◆ 市長の熱い思いが聞けた。
- ◆ 参加者も大勢おり、熱心に話し合いをしていた。
- ◆ 出席者がいい。すばらしい。
- ◆ 初めての経験
- ◆ 普段気付かなかった事が理解できた。
- ◆ 意識の高い方々と話をすることができた。
- ◆ いろいろな発言の中から今住んでいる場所の発見があった。
- ◆ 真摯な意見交換ができた。（しかし、書いたものは甚だ不十分）
- ◆ 1回目は4人の方、2回目は別の4人の方、計8人の方だけだったのに初めて聞く地域ならではの話、価値観の違いなどいろいろな話が聞けて良かった。
- ◆ 楽しく意見交換できた。

<70 歳代>

- ◆ いろんな意見を聞いたり交換できたこと。（4）
- ◆ 自分の住居エリアの環境の違いで問題意識が全く異なる事が良く分かった。
- ◆ 多様な市民と話し合えた。
- ◆ 活発な意見交換ができた。

- ◆ 熱心な意見がたくさん出ている。
- ◆ 逗子について改めて考えさせられた。

<80 歳代>

- ◆ いろんな意見を聞いたり交換できたこと。(2)
- ◆ 多様な市民と話し合えた。

【「どちらともいえない」とした理由】

- ◆ これからの内容次第
- ◆ まだ、霧の中。基本条例とは？

4 ワークショップで良いと思ったキーワードや考え方等

<20 歳代>

- ◆ 路地、街路が魅力的

<30 歳代>

- ◆ 周辺自治体との連携（ハード、ソフト）
- ◆ 市内で全てを完結させることは自治体の規模上難しい。
- ◆ 様々な世代、立場の方々（逗子市民歴も含む）と意見交換ができ、その中で共通していた、安心・安全・健康・楽しい暮らしに関し、個人レベルでできる「思いやりを持つこと」を日々心がけようと思いました。
- ◆ 活気があってつながりのある町
- ◆ 「あいさつ宣言」
- ◆ 逗子に生きるという考え方は素晴らしいと思います。基本概念というもののスタートにふさわしいキーワードだと感じました。
- ◆ モラル、ルール、マナーを守る。
- ◆ ゴミについての意識及び医療機関に対する意識が強かった。
- ◆ 逗子の市民として幸せとは？幸せな暮らしとは？
- ◆ 安心、安全な街づくり。
- ◆ 地域、米軍とのコミュニケーション。
- ◆ 海以外の山、川の良さについて
- ◆ 自分もこのまま逗子に住み続けたいし、子どもの世代にもそのまま住んでほしい。
- ◆ “親子 3 世代で暮らせる街” にしたい。⇒そうすれば様々なものが循環していく。

<40 歳代>

- ◆ 逗子らしいコミュニティの作り方
- ◆ 病気にならない健康な街づくり
- ◆ 優しい街（老人や子どもにも優しい）

- ◆ 安心して暮らせる＝マナー・モラル＝一人一人の思いやり
- ◆ 人が集まる町
- ◆ 海水浴の条例について、今までのいきさつや考え方について良く分かりました。
- ◆ 今後のワークショップを進める上での参考になりました。
- ◆ 「みんなが楽しめる町づくり」
- ◆ ソフト面を重視した安全で楽しめる街
- ◆ 海、山

<50 歳代>

- ◆ 世代間交流：引退された方がご自分の得意な分野で若い方に向けてワークショップを開くなど活躍できる場を設けたらどうか？
- ◆ 世代を問わずに楽しく暮らせる安心なまちづくり
- ◆ 逗子市の財源が心配。限られた財源をどこに振り分けるのか？そのことが今後の逗子市の在り方が決まるのではないのでしょうか？
- ◆ 課題は山ほどあります。
- ◆ 人口減少・環境・子育て・高齢化の対応
- ◆ 人と自然の共存共栄
- ◆ 自然と利便性の相反
- ◆ 環境整備と経済（税収）の両立
- ◆ 逗子に求める多様な価値観の共存
- ◆ 消費者の立場からすると、店が少ない（スーパー、衣料品、ファミレス etc）
- ◆ 物価（土地・家屋）が高い。
- ◆ ボランティア（元気な高齢者）の活用、観光資源としての海の活用
- ◆ ワークショップで多かったのが、全ての年代が安心して暮らせる街に、というものでした。東京から電車であって、海も山もある特性をもっと活かして外国人とも共生できる街に。
- ◆ 思いのほか、皆さんが街に期待することが多いと気付きました。
- ◆ キーワードとしては、「安心安全」「活力」
- ◆ 「あいさつ宣言」「空き家対策」「通学路、道路整備」
- ◆ 人を呼び込む魅力づくり
- ◆ 税収をいかに上げるか
- ◆ 交通の便が実は良い（始発、空港直行便）
- ◆ 3世代同居できる場所
- ◆ 「一人一人も思いやりを持つ」等女性の視点らしい意見が多く出て、なるほど男女共同参画の意識があると思った。
- ◆ 安全・安心・海と緑のある住みやすい街
- ◆ 新しい人が来てもすぐになじめる環境づくり
- ◆ 高齢者が住みやすい町ーバリアフリー
- ◆ 空き家の色々な活用案
- ◆ 子育て中心のコロニーとか

- ◆ 夏休み専用の別荘型活用法
- ◆ 地区での活用法
- ◆ 逗子ブランド、シームレス、元気な街
- ◆ 適当な不便さ
- ◆ 活気のあるまちをつくるためのコミュニケーション整備

<60 歳代>

- ◆ なにもないけど“幸せ”(2)
- ◆ 市民一人一人が考えて行動する。
- ◆ 人にも物にも自然にも思いやりを持って生活する。
- ◆ コミュニケーションづくり
- ◆ 開かれた街づくりということです。
- ◆ 新住民と旧住民の融合について、新住民の方々の悩みが聞けて良かった。
- ◆ 思いやりを持つ。しかし、具体策は？
- ◆ 税収のアップ。
- ◆ 高齢化に伴い、市民病院（救急体制）を設置して欲しい。
- ◆ 他の方の考えや想いが聴けたこと。
- ◆ 思いやりのある暮らし
- ◆ 安全安心
- ◆ お年寄りから中年、子どもたちが助け合って共に暮らせる町にできるように。
お年寄りに対するいたわりの心、思いやり（小さな子ども）。お年寄りも小さな子どもと接する事により元気が出る、元気をもらえる相互間の理解が深まるような方法を作る等。（例）老人ホームと保育所を併設し、互いに交流できる場をつくる街
- ◆ 自由
- ◆ 自由な意見
- ◆ 安心・安全な暮らしを重点に
- ◆ 新規住民とのコミュニケーション
- ◆ 防犯カメラの整備
- ◆ 鎌倉の方が生活圈
- ◆ 空き家対策についての提案。我が家の周りにも大きな家の空き家が増えているが、細かく分割され切り売りされる姿を見るのは切ない。
- ◆ コンパクト&コミュニケーションシティ
- ◆ 引越したいところだったので（住むようになった）
- ◆ 第1回目として、自由な意見交換、グループ交代は良かったと思う。

<70 歳代>

- ◆ 沢山ありました
- ◆ 「静けさ、清潔、安全、相互扶助のあるまち」としての共通意識があることが認識できたこと。

- ◆ 緑豊かなまち
- ◆ 人と人の交わり豊かなまち
- ◆ 安全に子ども・老人が移動できるまち
- ◆ 環境の維持、安全・安心・快適なまち、にする為の税収のアップをどのように
図るか（ふるさと納税 etc）
- ◆ 総合病院の設置あるいは医療団地にして 24 時間体制にして、内科、外科医療が
一同にしたもの。
- ◆ 自転車にルール徹底。
- ◆ 他の地域に住む逗子を愛する気持ちを感じられた。
- ◆ 人口減少について重要であることが分かった。
- ◆ 逗子を全国的にどう PR していくか。
- ◆ 「逗子でこういう風に暮らしたい」という事を考えたこと。
- ◆ 一応自分の思いの一部をお伝えすることができました。
- ◆ 世代間の交流があるような仕組みづくり
- ◆ 逗子をもっと住みよい町へ変化させるアイデアが提出された。
- ◆ 次回からはこれをどういう形で条例まで持っていか検討しあいたい。

<80 歳代>

- ◆ 総合病院の設立
- ◆ 安心、安全、豊かな自然
- ◆ 思いやりのある市民の街
- ◆ ルールとマナーを守る街
- ◆ 地域の伝統行事の掘り起こし、広めていくこと
- ◆ 自由な発想
- ◆ 医療対策のアイデア
- ◆ 空き家の利用

5 今後のワークショップに期待すること、ご意見等

<ワークショップに期待すること>

○ワークショップの運営（進め方、会場、時間配分等）について

- ◆ 会場設営がいまいち。
- ◆ グループの話し合いも、他のグループの声でよく聞き取れなかった。
- ◆ グループの話し合いは、小部屋に小グループが望ましい。
- ◆ 逗子が名実ともに、住みやすく、他都市からも羨ましがられる楽しい町づくり
ができることを願っています。
- ◆ 説明者（行政）が早口すぎるので、もう少し分かり易く話してほしい。
- ◆ ワークショップの時間を長く取ってください。
- ◆ 時間配分や仕切りをきっちりして欲しい。
- ◆ もう少し時間が長くてもよいと思います。
- ◆ 時間をかけ、ゆっくり進め方を決める。

- ◆ 時間調整を要検討して欲しい。
- ◆ 時間配分
- ◆ 討議時間をもう少し長く取ってほしい。
- ◆ 討論できる時間枠の確保を是非お願いします。Q&A が長かったかな～。
- ◆ これから慣れていくでしょうから、少しずつ行っていきましょう
- ◆ グループで話し合う時間が短かすぎる。説明が多すぎる。あらかじめ書面にて説明しておくべき。
- ◆ 流れもスムーズでよかったです。又、次回もよろしくお願いします。
- ◆ 本日のやり方（グループ移動）等、良いと思いました。

○意見交換について

- ◆ 短くても2テーブルだけでなく、他のテーブルの意見をもっと伺いたいと思う。
- ◆ テーマごとに細かく話ができればよいと思います。
- ◆ 自由な意見が言い合えるようにしていきたい。
- ◆ できる限り皆さんの思いが通じる話し合いにしていきたい。物理的な制限は色々ある中で、物理的以外の部分についても話し合えるワークショップにしていきたく思っています。
- ◆ 議論するグループを2時間の中でシャッフル（変える）するのは良いと思いました。
- ◆ ある程度、グルーピングされていると意見が活発になるかもしれません。
- ◆ 各テーブルでテーマを決めて、話し合いがあった方がいいと思う。
- ◆ 今回は広い問題で広がりがあったが、これからは少し絞って問題点を煮詰めるようにしたらどうかと思います。
- ◆ 活発な意見を期待したい。
- ◆ 逗子市内は地域ごとに異なっている面もあるので、多くの人と意見交換できるような班体制も検討して欲しい。
- ◆ グループの固定でより深い議論ができるのではないか。
- ◆ 色々な意見が交換できる雰囲気を期待します。
- ◆ 今回のようなブレインストーミング的なワークショップが良いです。
- ◆ ワールドカフェの方法がとても有意義でした。
- ◆ 高齢の方と若い方の意見が相反するところがあるので、それを交えることが課題だと思う。なかなか意見が交わらないのが続くと厳しいかと思う。

○ワークショップの参加者について

- ◆ 若い世帯と学生と市会議員の代表を選出して欲しい。
- ◆ 今回のワークショップ参加者の地区の分布が知りたいと思いました。考え方や意見に逗子全体のバランスが取れているか気になりました。
- ◆ 冒頭でご質問があったように、実現に向けて市議の方も参加されると有難いです。

○ワークショップの結果、とりまとめについて

- ◆ 実現性のあるアウトプット
- ◆ この活動を多くの市民に広めていただきたい。参加者として本気で考え続けていきたい。
- ◆ まとめるのは難しい。
- ◆ 次第に収斂させる。
- ◆ 毎回の成果が無駄にすることなくして欲しい。
- ◆ 毎回の意見の集計や内容を纏め、次回プリントで提示してください。そのうえで、今後の方針が出せる仕組みにしてほしい。
- ◆ ワークショップの結果はきちんと出してほしいと思います。
- ◆ 多様な意見がまとまることを期待します。
- ◆ グループディスカッションの結果を参加者全員にフィードバックする仕組み
- ◆ 市民の熱い思いを反映した結果につながるとよいと思います。
- ◆ 次の世代の方々の意見を広く採用していただきたい。特定の市民グループの意見・要望が幅を利かせないように。
- ◆ 強引なまとめ方をしないでほしい。

○その他ワークショップについて

- ◆ ワークショップ途上で、市民と学識経験者、議員たちと対話する機会が欲しい。
(少なくとも年度の区切りごとに)
- ◆ 他市町村、海外等、他事例の共有
- ◆ 市長の参加はベストである。
- ◆ 次回も出席したいと思います。
- ◆ 今後を期待する。
- ◆ まだこれからなので
- ◆ 回数を重ねる毎に実現したものになることを期待します。自分も色々な視点からこの街を見直したいと思います。
- ◆ “自治基本条例検討会”のメンバー選出/委任の仕方次第でどうにでもなる。
- ◆ ワークショップを行ったことで、毎回充実感が得られるよう方向性を明確にしてほしい。(マイルストーン)
- ◆ 市長の志の高さにいかに近づけるか？
- ◆ 大勢の方々の考え方を知りたい。
- ◆ 市長/市行政から仕掛けた一般市民のガス抜きにならぬよう十分に気をつけてほしい。
- ◆ 今日言ったり書いたりしたことを実現する手段として条例などを考えたい(この点の市長の発想には同感)

＜その他ご意見等＞

- ◆ 自然との調和をテーマにできることは貴重。大事にしていきたい。
- ◆ 仕組みとしては、NPOの助成やボランティアの組織化を望む。
- ◆ 長く暮らしていける町づくり
- ◆ 新しい風を呼んでほしい。
- ◆ 今までなんとなく考えていただけが、良く考えてみようと思った。